

第1回 高知市口腔保健検討会会議録

高知市保健所 2階大会議室

H27.9.30 18:30~20:30

1 開会

司会：健康増進課課長補佐

2 高知市保健所長挨拶

3 議事

① 保育園・幼稚園・学校等でのむし歯予防の取組

事務局より説明

(質問・意見交換)

【宮川会長】

高知市の場合は分母が多いため、パーセントにすると、他の市町村と比べてあまり増えないが、少しずつでも園とか小学校で進んでいけばいいと思う。

高知市はむし歯の割合としては多くはないが、養育困難家庭があったり、むし歯もない子はないが、ある子はたくさんあったりするため、フッ素洗口は有効な手段だと思う。

【竹島委員】

五台山小学校の学校薬剤師をしている。平成19年からフッ素洗口を実施している。全校生徒は100人足らずのいわゆる小規模校なので、各学年1クラス、担任も学年に1人ずつしかいないため、それだからやりやすいということもある。もう一つは学校歯科医の熱心さが一番にあったと思う。

学校歯科医と養護教諭の先生二人でフッ素洗口開始を進めていて、ほとんど決まってから学校薬剤師に話がきたため、開始の経過についてあまり詳しくないが…。二人の熱心さが一番あったのではないかと思う。世帯数が少ないということもあるが、PTAが協力的で行事等への参加、盛り上げる姿勢も伝わってくる。親の理解もあったと思う。

【松持委員】

フッ素に対する抵抗はないと思うが、やっていること自体が保護者にどれほど浸透しているか。効果的なことなど、どこまで理解できているか。そういうデータのものを保護者に出していただければ、保護者のほうも協力的になってくる可能性はあると思う。

PTAは小中学校で60校あるが、結構温度差がある。協力面でもそうだが、お金面でも持っている学校、ぎりぎりで行っている学校がある。持っている学校では児童にいくらか使っていくこともできるが、ぎりぎりで行っているところは難しいため、そういう金

銭的な面でも考えていかなければいけないと思う。

【事務局(上田)】

今年度までは県の補助事業が活用できている。開始するときの初期費用である必要な物品(1回あたりの量が出てくるポンプや1分間うがいをするための音楽のCD等)と当面の薬剤は県が購入してくれることになっている。来年度以降は、高知市に向けての助成は終了と聞いているので、高知市としても現状を維持できるような方向で検討している。

【宮川会長】

フッ素の効果についての資料等は学校の先生方にいつているか？

【事務局(上田)】

県が作成したフッ素のパフレットを養護教諭の先生方には全員にお配りしている。市民の方には就学前の最後の機会である3歳児健診に来られる方全員に配布している。研修会等の依頼があった場合はこの資料を活用している。

【田岡委員】

市の歯科医師会としましては、学校保健部で対応している。トップダウンは難しいという状態。先ほどの市からの報告にあった国立小学校は、自分が学校歯科医で、小学校に対して働きかけを行って来て、やっと学校も問い合わせ等に動いてくれた状況。

養護教諭の先生だけでは、なかなか実施にむけて動くのが難しいとも思うので、協力しながらやっていきたいと思っている。トップダウンが難しいのであれば、学校歯科医と養護教諭等が協力しながら地道な活動が必要だと思う。

トップダウンが成功した場所もある。熊本県が、成功してフッ素洗口が普及したとか島根県の松江市は、教育委員会が先頭を切って取り組んでいるという事例もある。

児童のむし歯の数は減ってきているが、むし歯が多い子、少ない子が二極化し、格差ができています。集団でフッ素洗口を行う目的としては、親御さんが介入できていない部分の底上げや、二極化しているむし歯が多い子がターゲットだと思う。

そのためにできることとして、公費で取り組める体制づくりも重要だと考えている。

また、歯科医師はもちろん、学校関係者や保護者のみなさん方にフッ素の効果や取り組みの重要性についての研修会等を行ったらどうかと学校保健部長とも話をしている。

【伊藤委員】

今年、児童数610名の大規模校にかわりまして、この学校でやると考えると、人数、場所、施設、設備の問題で難しいと思う。学校によって違うと思うので、全部が全部で

きないわけではない。校長会ではフッ素洗口についての話は、以前はあったかもしれないが、自分が参加しているなかではない。

養護教諭がやはりフッ素については一番詳しい。養護教諭と話をするなかで、養護教諭によっていろいろ考えがそれぞれあるようで、高知市の養護教諭の中でも一つの方向は向いていないと聞いた。安心安全などいろいろな部分で多様な考えがあるとのこと。

突破口としては、施設、設備面でできるところ、教職員と保護者の方の理解があるところ、まずは希望者から始めるなど、無理のない形で始めるのがいいと思う。

校区の幼稚園・保育園で取り組んでいるところならば、保護者の理解も得られやすいと思う。教員の部分の理解は十分でないと思うので、教育委員会に中心になっていただかないとなかなか進まないと思う。各学校の判断では学校長は判断しにくいと思う。

【山村委員】

医師会のほうは、むし歯とかフッ素洗口に関しては、この会に来るまでは、そこまで頑張っただけでやらないといけないというふうに捉えていなかった。

一般的にも子どもの歯は、むし歯になっても永久歯に生えかわるから、永久歯を大事にしたらいけないという感覚が昔からあったように思うので、そこまで取り組みができていなかったのではないかと。

医学的なほうの病気に関しては、いろいろな問題が発生するので、ご家族等についても重要視されているのではないかと。

今後の取り組みとしては、医師会の学校医部会のほうで年に2回研修会があり、学校の校長先生や養護教諭の先生が参加する。歯科のほうから誰か派遣していただいて、そういう場で話していただくことで広がっていくのではないかと。

【上原委員】

協会けんぽの方で、ご家族、子どもさん向けの歯科の取り組みは何もしていないが、歯周病は生活習慣病と関係があるといわれていて、小さい時からむし歯予防、歯みがき習慣がついていけば将来的にも病気の予防につながっていくのではないかと。

理解をしてもらうためには、いろいろな機会を見つけて、回数多く、データを示してわかりやすく伝えていけば、理解も得られるのではないかと。

【宮川会長】

今日は、学園短大の大野委員は欠席だが、傍聴席に中石先生が来ていただいている。今から歯科の現場に出られる歯科衛生専攻の学生さんに、教育の方では、フッ素に対してはどうすすめていこうとか、抵抗等はないか？教えていただきたい。

【中石先生（高知学園短期大学）傍聴席】

学校のほうでは、予防処置や口腔衛生の時間にフッ素の重要性については授業をしている。抵抗があるということはなく、フッ素の重要性については、高知市の協力で小学校や、保育園等にも実習に行かせてもらっているの、さらに理解をしていると思う。

今後も歯科医院等で働くことになった時に、歯科の先生方のご理解・ご協力があればいつでも勉強のほうもしていくと思う。

【宮川会長】

歯科医の中でも抵抗がある先生もいる。歯科医師の中でもまず理解をしていくことが必要。地道に広めながらすすめていくことが大切。行政の中ではどうか？

【教育環境支援課 弘瀬課長】

歯科医師会の先生方からは、フッ素洗口についてすすめてほしいという要望を、いただいている。やはり教職員含めて、PTAの方等へもフッ素洗口についての情報発信が必要だと思った。まずは校長先生のほうに話もさせていただいて、学校の要望も聞かせていただき、PTAの研修会等でも説明していくことが必要だと思う。

高知市内でも始まっている学校の効果についても広めていくのが必要だと思った。

【教育環境支援課 谷指導主事】

養護教諭の中でも、全体で統一されたものにはなっていない。ここ3年、養護教諭の研修に上田歯科医師に来てもらい、フッ素については説明をしてもらっているが、まだ不安のほうが多い状況。フッ素についての効果についてはもっと広めていく必要があると思う。こうすればできるという視点で広めていきたいと思っている。

【保育幼稚園課 山崎課長】

保育幼稚園課としては、近年、朝食の欠食率が高く、欠食している子は多分歯みがきもしていないということで、園での取組みとしては基本的な生活習慣を身に付けることと併せて、歯の健康を確保していくためのフッ素洗口の取組みをしていかなければならないと考えている。

歯科専門職に、園長事務連絡会等で説明をしてもらっているので、施設長レベルでは安全性や効果の認識は得られている。ただ現場のほうでは、大きい規模ではなかなか保育や教育に負担がかかるという考えもあると聞いている。

そういうところに効果や方法などをもっと示していかなければならないと考えている。

【宮川会長】

地道に少しずつやっていき、周知をしていくことが第一歩で、各団体のほうからも説

明等必要であればご意見いただけたらと思う。

- ② 生活習慣病予防と連携した歯周病予防の取組（医歯薬連携）
事務局より高知市の取組みについて説明

【宮川会長】

今年度は生活習慣病と連携した取組みとして、高知市歯科医師会が高知市より委託をうけて「医歯薬連携推進事業」を実施しているが、田岡部長、説明をお願いします。

【田岡委員】

9月18日金曜日に第1回目の協議会を行いました。本検討会委員である山村委員、竹島委員にも御協力いただき、医師会より2名、薬剤師会より2名、市歯科医師会より宮川と田岡が出席しました。

今年度は各団体の会員の方々の生活習慣病と歯周病の関係についての周知度を確認するアンケートを実施します。その結果を元に、各医院で掲示できるポスターの作成を考えています。この事業は3年計画で考えているので、最後にアンケートをとって周知度がどれくらい上がっているかを確認します。3年間で研修会やフォーラム等の開催も検討していく予定です。

【山村委員】

病気は、医科は医科、歯科は歯科、薬剤は薬剤だけで動いているけれど、病気は全てつながっていて、全てが元気でなければ元気にならない。どこかが悪くなると他の病気になったり、薬も副作用があったり、適切な使い方ができているのか？人間の体全てをみながら考えていくことが大切だと思う。

【竹島委員】

薬剤師は、医科と歯科の接着剂的な役割が担えたらと思っている。どちらへ行くにしても、薬局を通過するので、その機能を果たせたらと思っている。

薬局は処方箋を持たない一般薬を買いに来る患者さんもいるので、一般の方へのアプローチもできるのではないかと思う。

例えば、入れ歯の方が安定剤を買いにきたりもするので、そういう方に歯科の受診をすすめることができる。また入れ歯の洗浄剤や歯みがき剤等も売っているので、予防の面からも歯科の受診や、定期健診を受けるようなアドバイスもできるサポーター役ができるのではと思っている。

【山村委員】

先ほどに付け加えて、基本的に病気を元気にするためには、食事が一番大事だと思う。食事ができなくなると弱ってくる。十分しっかり噛んで食事が取れると元気になるし、食はエネルギーの元で、十分に摂取することで免疫力が上がってくる。そうすると、治療も効果がでるし、薬もしっかり効く。そこを高めていくことが一番大切だと思う。全てが一体となって取り組んでいかなければいけないと思っている。

【上原委員】

先ほど説明があった結果説明会は高知市のほうの説明会で、協会けんぽでは説明会等では実施できていない。健診を受ける機会には多くの方が来てくれるので、扶養家族の方へ健康教育ができればと思っているが、マンパワーもないし、口腔の専門家もいないので、歯周病予防や指導・相談等の協力をしていただけたらいいなと思った。

事業所にお勤めの方には、何もできていなくて、一部の健診機関では、健診の時に口腔のほうも調べる機会があるが、それ以外の健診機関ではできていない。

これだけ関連があるといわれているので、健診の時に口腔をセットでできればいいなと思う。事業所に出向いて健康学習をしているので、今日報告があったような問診票を活用したり、お口の細菌を調べたりできたら説得力があるなと思った。

【伊藤委員】

加齢とともに抵抗力が弱り、いろいろトラブルが出てくるし、治りが悪くなってくる。そのことだけに意識がいつてしまうので、全体のバランスを考えて、運動や、疲労回復など考えていかなければいけないと思った。

学校では教職員は人間ドックを受けているが、歯のことを調べる機会がなく、健診といたら、血液検査や尿検査という意識になってきている。できることとして、簡単なことから健康診断の中で、歯科の取組み等も行っていったらいいと思った。そういうことをやっていくと、フッ素洗口のこと自然に認知が高まって、やっていかなければという意識になって行くのではないかと思った。

教職員の年齢は40代後半、50代が多く、自分の健康のことはどこの職場でも、話題になっており、健康に対する意識が高いのでできることはあると思った。

自分自身は若いときから、定期的に歯のクリーニングに行っているが、どうしても歯のトラブルはあるので、いろいろな機会意識を高めることが重要だと思う。

【松持委員】

保護者の立場でいいますと、大人は歯が痛くならない限りは行かない。年に1回の健診に行くけれど、歯の健診はない。歯から生活習慣病予防という意識はつながっていないと思う。そういったところもPTAの研修会等で研修をしていただくとか、PTA会長等

が集まって会をする機会があるので、そのなかで話をしていただいたら普及していくのではないかと思った。

【宮川会長】

いろいろお話をお聞きしていて、口腔保健支援センター事業ということで、歯科が中心にならないといけないが、歯科の力不足を一番感じている。

まずは医歯薬連携の事業につきましては、3年計画のなかで、歯科のほうの意識向上に取り組みながら、医師会、薬剤師会とともに、周知に取り組んでいく。

体の悪い人は病院等でリーフレットやポスターを見ますが、普段興味がない方に対しても、どうやって普及していくかも課題。三師会の中でもフォーラム等の話も出ているが、一般の市民の方に普及していくためには、必要なことじゃないかと思う。

閉 会

事務局より連絡事項

次回の検討会は、年度末の2月に実施予定。